

いこま塾 まちづくりワークショップの開催結果

○全6回のワークショップを終了し、成果の発表を行いました。この成果をもとに、市民まちづくりアクションプランの検討を行っていくこととなります。

○今後、ワークショップの参加者らで、第1日曜日の午前9時から定例で「井戸端会議」を開催していくこととしました。

日 時	テーマ
第1回 5/22（日）9:00－12:00	ワークショップをはじめよう ・自己紹介とグループ分け
第2回 6/12（日）9:00－12:00	ライフスタイル連想ゲーム ・都市MPの「都市づくりの目標」から連想した自分自身のライフスタイルのイメージについて検討する
第3回 7/10（日）9:00－12:00	生駒で目指すライフスタイル（将来像）の共有 ・グループ内での検討テーマに基づいた、生駒で目指すライフスタイル（将来像）の共有化を図った
第4回 8/7（日）9:00－12:00	1人称のアイデア ・第2回で検討したライフスタイルを実現していくため自分自身ができること、やりたいこと、誰かと一緒にやりたいことのアイデアについて検討した
第5回 9/4（日）9:00－12:00 （P2～）	アイデアを実現していくために ・第3～4回で検討したアイデアを実現していくために関われること、市民の取り組みを活性化するために関われることについて検討した
	自主的な集まり 各グループで自主的に集まり、最終の取りまとめ・発表に向けて話しあいを実施した
第6回 10/16（日）9:00－12:00 （P7～）	成果の発表・まちづくり人宣言

※記録は前回委員会以降開催された第5回、第6回を添付

日 時：2011年9月4日 9時～12時
場 所：市役所4階 大会議室
出席者：27名

プログラム：1 はじめに
2 ワークショップ
3 講評
4 おわりに

●はじめに

近畿大学教授 久隆浩氏からひとこと

ワークショップの目的をおさらいしたいと思います。一つは、都市計画マスタープランの市民アクションプランにアイデアを盛り込むということです。市民側にどういうことができるのか、していきたいのかということ抽出します。こういうことがしたい、ああいうことがしたいなど、様々なアイデアを出してもらえればいいと思います。一つに絞り込む必要はありません。また、行政が何をお手伝いできるのか、という支援の方策を検討する時の参考にしますので、こういう手助けがあったらスムーズに進むのになあということがあれば出していただきたいと思います。



もう一つは、友達をつくるということです。市職員が各テーブルに入って一緒に参加しています。協働においては、人間関係が重要です。市民にお願いしたいことがあるなら、あの人に声をかけよう、という顔が思い浮かぶ関係が大切なのです。豊中市では、市民が少なくとも一人の市職員と友達になる、ということを目指して取組みを進めています。例えば市民にとっては、「〇〇課に行く」というよりは「△△さんと話しに行く」という関係です。

行政の人もどこかの団体に参加して活動をするがありますが、所属は関係なく一人の市民として入っていることが多いのです。これから協働を進めていくときには、個人同士として手を携えてがんばっていく、という関係が大切でしょう。頭に置いていただければと思います。

●ワークショップ

各グループの意見交換の概要

アイデアを実現していくための取組みについて、グループごとに意見交換しました。また、これまでの意見の整理を行い、「私たちが目指したい暮らしの将来像」「将来像を実現するための方法（道筋）」「まずやりたいこと」を明確にする作業を行いました。

《チームいこまダ！》

メンバー：坂口さん、福西さん、藤井さん（3人）

これまでのワークショップを通じて感じたことや、ワークショップを受けて始めた取組みや、「大きなことを進めるために、小さなことから始める」と感じたというご意見などをいただきました。

メンバーが十分に揃っていないため、最終発表についての具体的な方法や内容については、別途集まることにし、別途設定する会議の時には、あらためて今回の作業を行うこととしました。

テーマ	内容
ワークショップ等への思い	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり塾に参加して、色々知らないことを教わり、楽しかった。 ・ワークショップでは、具体的なケースや、地域での開発など行政が進めることに對して、ものをどの段階で言えるのかなど、プロセスについて、行政とやりとりをしながら、知ることができると思っていた。 ・最初に想像していた内容とは違った。
市役所との関係（距離）	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の想いを伝えられるようにしたい。 ・市役所の人に伝えられる手段を見つける。（役所の人との顔見知りをつくる）→身近になると「どうしてやってくれないのか」という思いにもつながる。 ・役所の考え方など知ろうと足を運んだりしたこともある。
ワークショップに参加して行くようになったこと。（行動しようと思ったこと）	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人にあいさつ、小学生への傘の貸し出しなどをするようになった。 ・同じような意識を持っている（と思う）人に思っていることを話してみる。 ・回覧板を回すときに今はポストに入れるが、昔は一声掛けていた。今度から一声掛けてみようと思う。→やりとりを通じて、隣近所の様子も知ることができる。（この家は、赤ちゃんがいるから呼び鈴は鳴らさないようにしようなど） ・まちの中で起こっていること等に対して、受け身でいてはいけないと教わった。 ・「市が勝手にした」とか、「私たちが知らなかった」というのは、言い訳である場合もあるかもしれない。
行動に移していくときのハードル	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい人が地区に入ってくるので、関係づくりが難しい。 ・誰かが旗振り役になってくれればできるけれど、自ら先頭に立ってまとめていくのは大変。 ・行動に移して、近所関係がぎくしゃくすることも考えられる。 ・「人を集める」というのは難しい。

《生駒を愛するチーム「ほたる」》

メンバー：植田さん、上野さん、大西さん、菊田さん、口村さん、小泉さん、古林さん、森田さん（8人）

前回の議論を踏まえ、どのようなステップで将来像を実現していくのかを整理し、それに沿って具体的な取組み内容について議論を行いました。

将来像を実現していくためには、「まず地域の状況を知ることが必要で、そのために誰でも参加できる写真会みたいもの（メールやインターネットを通じた開催も可）を開催して、みんなで課題を共有してみては」という意見や「具体的に地域で取り組んでいくために、いこま塾・地域版を開催しては」という意見、さらに「将来像を実現させるような取組みを行っている団体を表彰して感謝してみては」というような意見が出されました。

実現するための方法（道筋）	具体的な手法
1. 地域の状況を知る（勉強・見学する）	<ul style="list-style-type: none"> ・入口として、市内のいいところ悪いところを撮った「写真会」を開催する。（他の市ではいろんな募集を行っている）
2. 興味のある人、詳しい人を集める（集まる）	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇クラブの方などを通じて、ある特定のものに興味のある人を探す。（写真会は写真クラブなどが集まりやすい） ・〇〇コンテストを開催し、それぞれ得意なものを披露してもらう。 ・耕作放棄地の再利用を考える。やりたいと思う人と貸しても良いという人をつなぐ。（ただ問題もいろいろある）
3. 地域に活動を広げていく	<ul style="list-style-type: none"> ・いこま塾の卒塾生が中心になって、「いこま塾・地域版」を開催し、楽しくできるところから取り組んでいく。 ・その中で見つけた既存グループと一緒にやっている地域に活動を広げていく。
4. 感謝する	<ul style="list-style-type: none"> ・将来像を実現させるような取組みを行っている団体を市民で表彰する。「ありがとう賞」を作る。

《チームバリアフリー（高齢者にやさしいまちづくり）》

メンバー：荒井さん、井上さん、加納さん、塩井さん、田中さん、三木さん、美浪さん、柳川さん、
(8人)

前回の議論の到達点である「高齢者が生きがいを感じることが出来る場づくり＝いこま大学」を基本に、「どうやって講師となる人材を集めるのか」、「取組みを展開するのか」と言ったことを中心に議論を行いました。

既に渋谷では「シブヤ大学」という取組みがNPOを中心として展開されているという情報提供があり、将来的には高齢者のみならず、生駒市民、ひいては市外の方々も利用できるようなものになればという話もありました。

まずは出来る範囲でということで、「既に様々な取組みをされている自治会等をモデル地区として設定し、試験的に取り組む」「取り組む内容も地域の語り部や昔の写真を持っている人を集めることで地域の歴史を知る」と言った、比較的ハードルの低いところから取り組めば、皆が気軽に参加しようという意識が働くのではないかという意見も出されました。

また、提案するからには一人ひとりのメンバーが出来ることも考えようということで、発表会までに検討することになりました。詳細は発表時のお楽しみに！

〈いこま大学づくりのポイント〉

- 難しいことだけを教えるわけではなく、気軽に参加できる場とする。

⇒地域の歴史を語る、暮らしの知恵袋講座～私の節約術 など

- いこま塾卒業生が中心になって活動を展開する。

⇒既に様々な知識やノウハウを持った人が集まり、若手職員と市民のネットワークも出来つつあるこの環境を活かす。

《つなぐれ元気の わ・和・輪》

メンバー：塩瀬さん、巽さん、西さん、長谷川さん、福山さん、山本さん (6人)

チーム名を検討しました。チーム名の「和」は、みんなが地域のことを知り、人と人とのつながりがある状態、「輪」は元気と健康の波紋が広がっていく様子、「わ！」は感動と驚きの表現を表しています。

第3回目のワークショップで「目指したい暮らしの将来像」を、第4回目で「実現するための方法」を話し合いました。そこで今回は、将来像を一つにまとめ、一言で表せるキャッチフレーズを考えました。次に、実現するためのたくさんの方法の中から、将来像を意識して、より効果的な方法5つに絞り込みました。

イベントなどに関する情報提供は、最初は市にやらしてもらおうかと話していましたが、情報提供はスーパーの掲示板を活用することや、市民が管理する書き込めるHPを準備するアイデアで乗り越えられそうだとということになりました。また同様に、農作物を持ち寄るイベントの開催については、最初だけは市に手助けをしてもらうにしても、それをきっかけとして市民の間につながりができるので、それ以降は自分たちで少しずつ行動していけそうだという話になりました。

私たちがまず楽しくアイデアを出し合い、楽しい企画をすることで、技やスキル（例えばHP管理）を持った人が集まってきて、楽しく活動が繋がっていくのではないかと話しています。

項目	内容
目指したい暮らしの将来像	つなぐれ 元気の わ・和・輪 ～大人も子どもも地域のことをよく知り、健康で明るく楽しい暮らし～ 1 健康で明るく楽しく 2 地域のことをよく知る 3 子どもたちを育てる 4 いろいろな人とのコミュニケーションをはかる
実現するための方法(道筋)	・“いこま学”もの知り king ・できすぎ野菜で収穫 Queen ・いこまを元気にする king ・心はエキサイティング 体は無理な Queen ノルディックウォーク ・たっち ing♥ ペット園 ※タイトルだけでは詳細は分かりません。次回をお楽しみに！！

《明るい生駒をめざす会》

メンバー：秋山さん、川口さん、栗巣さん（3人）

前回までの議論を振り返り、目指したい暮らしの将来像と実現するための方法（道筋）を整理しました。具体的な取組みについては、子どもたちの道德の問題や高齢者・障がい者のケアについて、市民としてどのように関わっていけるのか悩みましたが、久先生と松村先生のアドバイスを受けてとりまとめました。アイデアを具体化する方法については宿題としました。

欠席の方もおられたので、最終回までの間に一度集まって、アイデアの具体化方法の議論や発表の準備などをすることにしました。

テーマ	内容
目指したい暮らしの将来像	笑顔あふれる明るい暮らし ・健康→頭と身体をつかう ・ほっとできる→自然、人 ・すくすく→元気、ルール
実現するための方法(道筋)	●子どもたちが自然の中でのびのびと遊び学べる環境 ①公園づくりに関わる ・安全、安心な遊具を選ぶ ・樹木を選ぶ（安全・安心、心のいやし（鳥や虫）） ②自然と関わるイベントを行う ・虫採り、植物勉強、ザリガニやドジョウ採り ・学校の授業、自治会やサークルの行事 ③子どもたちの道德学習 ・虫採りや川遊びのなかでルールを学ぶ ・イベントを通じて大人が子どもをしかれる仕組みや環境をつくる ●みんながいきいきとストレスなく暮らせる環境 ①高齢者の交流 ・高齢者同士がふれあえる機会をつくる（不要な本や雑誌を集めた 簡単図書館、サークル活動） ・高齢者と若い人がふれあえる機会をつくる（落語、民謡などの発表） ②障がい者の交流 ・障がい者同士がふれあえる機会をつくる（障がいの度合いに応じたふれあい、曜日を分ける） ・障がい者と健常者がふれあえる機会をつくる（地域の中で働ける場をつくる）

●講評

大阪大学大学院准教授 松村暢彦氏

話し合いを深く掘り下げることができたと思います。みなさんが話し合いの中で、オリジナリティばかりを追求するのではなく、どうやったら楽しくできるのか、どうやったら生駒市での生活がよりよくなるのかを考えていることが伝わってきました。とても頼もしく思います。

次回は発表ですが、聴いている側も楽しくなるようなものがないのでしょうか。聴いていて「楽しいなあ」と感じた人は、実現しようとする際に手を貸してくれるかもしれないからです。心待ちにしているので、がんばってください。

●ふりかえりシートから

「ふりかえりシート」の中からのご意見をいくつかご紹介します。

- ・グループメンバーがひとつのチームとなって、うまくまとまってきたのがよかった。
- ・どこにたどりつくのか不安な面があったが、今回方向性が見えた気がした。
- ・限られた回数で成果の発表まで進めていくのは難しい。もう数回あればよかったと思う。
- ・あとはいかに活動していくか、という一番大切な DO が残っている。自分のできることはこれからやっていきたい。

●事務局

生駒市都市整備部都市計画課

TEL : 0743-74-1111 (内線 564) FAX : 0743-74-9100 mail : ikotoshi@city.ikoma.lg.jp

日 時：2011年10月16日 9時～12時
場 所：市役所4階 大会議室
出 席 者：34名

プログラム：1 はじめに
2 成果の発表
3 講評
4 おわりに

●はじめに

山下市長からあいさつ

最初に、3,000人の市民のみなさんにいこま塾への参加を投げかけた時は、どのくらいの方に反応していただけるか不安でしたが、38人の方に最後まで参加いただくことができました。

入庁2年目の職員も参加しておりましたが、市民と行政が対等な立場で話し合うとはどういうことかが分かったのではないのでしょうか。市役所の窓口にいらっしゃる市民の方は意見をおっしゃるために来られる方もおられ、それが不満であることも少なくないため、行政と市民という関係は対立的なもののように思いがちです。今回のいこま塾は、対等に接することのできる貴重な機会であったと思います。

取組みがここまで継続して来られたのは、先生方の労をいとわないご対応のおかげです。今日の成果や発表を聴いて、市政についての着想を得たいと思います。みなさん、今後とも建設的なご意見、ご協力をお願いします。



●成果の発表

発表の順番

厳正な方法により、順番は次のように決まりました。

- ①生駒を愛するチーム「ほたる」、②チーム「わ・和・輪」、③明るい生駒をめざす会、④チームいこまダ！、⑤チームバリアフリー

《生駒を愛するチーム「ほたる」》

メンバー：安部さん、出水さん、植田さん、上野さん、大西さん、菊田さん、口村さん、小泉さん、古林さん、末光さん、藤江さん、森田さん、梁瀬さん、山崎さん（14人）

生駒の資源である豊かな自然に着目し、景観や環境をテーマに議論を行ってきましたので、議論の内容と将来像実現に向けてひとりひとりができることを発表していきたいと思います。

実現するための道筋	内容
目指したい暮らしの将来像	五感で感じる暮らし（自然の音、草花のかおり、目に見える風景、肌に感じる風や空気、実った作物の味）
生駒市の現状・改善すべき対象	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の荒廃 ・沿道の街路樹など高い樹木の減少 ・耕作放棄地が増加 ・川に親しむ空間がない

実現するための道筋	内容
取り組むために大切にしたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境は守るだけではなく、創ることも必要 ・担い手は「定年を迎えるが、家に閉じこもってしまっている方」「子どもや若い人たち」 ・産業で支える仕組みづくりが必要
取組みの方法として	<ol style="list-style-type: none"> ① 知る、勉強、見学：入口を用意する、引き出すための場 ② 集まる、集める、整える：興味を持った人が集まる ③ 活動する：地域に広げていこう、既に活動しているグループと連携しよう ④ 将来像に向けて：市民のみんなが「ありがとう」を <p>⇒ とりあえずやってみよう！たとえば…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 里山デジカメ選手権 ・ 地域の「良いところ」「悪いところ」の写真を持ち寄りマップを作る ・ 我が家の自慢できるもの・技を持ち寄る ・ 季節によって異なる魅力をアピールする
ひとりひとりができること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然に「気づく」。通勤途中に立ち止ってみる ・ 意識する、見つける ・ 地域共同体を復活させる ・ 生駒の景観を写真で撮る（写真を趣味にしたい…） ・ 生駒探検クラブ（小中学生向け、一般向け）を作りましょう ・ 川の清掃活動と生物の保護活動 ・ 一歩前へ（とりあえず何かやってみる） ・ 自分の身の回りに自然を積極的に取り入れる ・ 炊事場からできることに取り組む（アクリルたわし、米のとぎ汁、ぼろ布などの活用） ・ 家庭菜園づくりをみんなに広げていく

松村先生からひとこと

・ ほたるというチーム名はどのような思いでつけられましたか？水や緑の象徴として、また一つ一つの点（思い）を面的に広げていくというイメージでつけられたのだと思います。

会場から質疑

・ デジカメ選手権とあったが具体的には誰がやるのですか。
→ 既に林野庁などでやっており、そのようなことができればと思っています。

取り組むために大切にしたいこと

自然環境は **守る** だけではなく、**創る** ことも必要

担い手は…

- ・ 定年を迎えるが、家に閉じこもってしまっている方
今まで培ってきた知識・人脈・技術を活用
- ・ 子どもや若い人たち
環境問題＝高齢者というイメージを壊したい！
高校生になってからは、生駒市に住んでいるが市との関係は疎遠になりがち？

産業で支える仕組みづくりが必要

「環境のため」だけではなく、事業として成立させることができれば、活動を継続的にし、地域の人を巻き込むことができる

産業のない生駒市の活性化にもつながる！



《チーム わ・和・輪！》

メンバー：塩瀬さん、巽さん、西さん、長谷川さん、福山さん、山本さん（6人）

将来にわたり健康で明るく暮らすことができるように、生駒の地形を楽しみながらできる「ノルディックウォーク」を中心に提案します。歩くことを基本として、地域のことを学ぶ機会や、ペットと触れ合って命の大切さを知る機会、地域で採れた野菜を無駄なく分け合う機会など、様々な機会をつくるアイデアを提案します。

<p>目指したい暮らしの将来像</p>	<p>つなぐれ 元気の わ・和・輪 ～大人も子どもも地域のことをよく知り、健康で明るく楽しい暮らし～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康で明るく楽しく 2 地域のことをよく知る 3 子どもたちを育てる 4 いろいろな人とのコミュニケーションをはかる
<p>実現するための方法(道筋)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いこまを元気にある king 健康を維持するために、生駒の歩きがいのある地形を活かして、ノルディックウォーキングをしましょう。 ・ “いこま学” もの知り king 教育委員会が文化財マップを作成されています。これを見ると、生駒には見どころがたくさんあることが分かります。見どころを巡りながら散歩しましょう。 ・ たっち ing♥ ペット園 ペットを連れて集まって、ペットの飼い主どうしの交流の場、子どもたちが生き物と触れ合う場、飼い主が子どもと触れ合う場を開きます。店の掲示板などを活用して広報します。 ・ できすぎ野菜で収穫 Queen 野菜がたくさんできたときには、みんなで持ち寄って、余った野菜を売り合います。 ・ 心はエキサイティング 体は無理な Queen ノルディックウォーク ノルディックウォーキングの効果、楽しさを伝えるために、ビデオをつくりました。全身運動なので健康によく、楽しく歩いて仲間を増やすこともできると思います。みんなで歩きましょう。

松村先生からひとこと

・ING の現在進行形を使っていますね。ING の動きは、近くで見ている人に伝播して、活動に巻き込んでいく力があると思います。

会場から質疑

・ノルディックウォーキングのポールを使った方がいいのでしょうか。どこで手に入りますか。
 →ポールを使うことで、全身の90%の筋肉を使い、カロリーも効果的に消費することができます。総合型地域スポーツクラブで取り扱っていますので、まずは市にご相談ください。





《明るい生駒をめざす会》

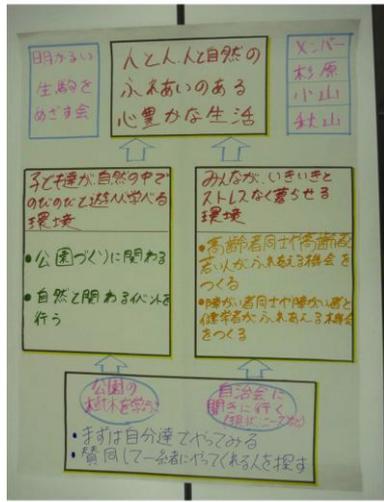
メンバー： 秋山さん、小山さん（2人）

提案するだけでなく、実際に始めないと意味がないと思います。そのためには事前に情報を集めることも大切で、市役所にも協力していただければと思います。自分のできるところから動きたいと思っています。賛同される方がおられたら是非一緒にやりましょう。

テーマ	内容
目指したい暮らしの将来像	人と人、人と自然のふれあいのある心豊かな生活
実現するための方法（道筋）	<p>●子どもたちが自然の中でのびのびと遊び学べる環境</p> <p>①公園づくりに関わる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全、安心な遊具や樹木を選んだりする ・鳥や虫が来ることで心のいやしにもつながる <p>②自然と関わるイベントを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫、植物、ザリガニ、ドジョウなど自然にふれられるようなイベントをする ・自然の中でのイベントをすることで、道徳を学んでいくことにもつながる <p>→自分たちが公園の樹木を学ぶところからはじめる</p> <p>●みんながいきいきとストレスなく暮らせる環境</p> <p>①高齢者同士や高齢者と若い人がふれあえる機会をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者同士がふれあえる機会をつくる ・高齢者と若い人がふれあえる機会をつくる <p>②障がい者同士や障がい者と健常者がふれあえる機会をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの度合いに応じて障がい者同士がふれあえる機会をつくる ・障がい者と健常者がふれあえる機会をつくる <p>→自治会に現状やニーズを聞きに行くことから始める</p> <p>実現していくために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは自分たちでやってみる ・賛同して一緒にやってくれる人を探す

松村先生からひとこと

- ・子ども達は活動の中から様々なことを学ぶものだという事は日々実感していることでもあります。
- ・なかまを集めてできるところから始めてみるということは非常に重要なことだと思います。



《チームいこまダ!》

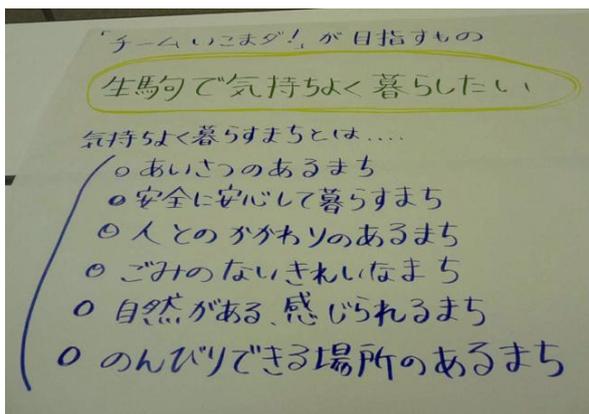
メンバー：坂口さん、筋原さん、塚さん、土肥さん、福西さん、藤井さん（6人）

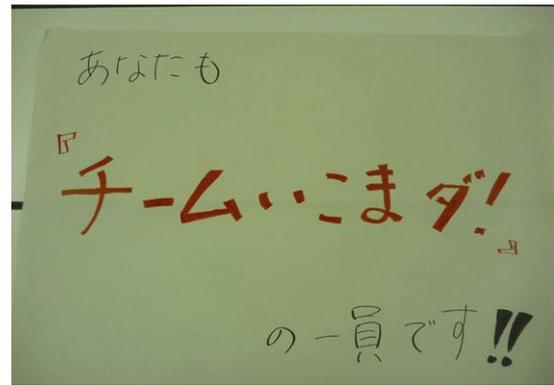
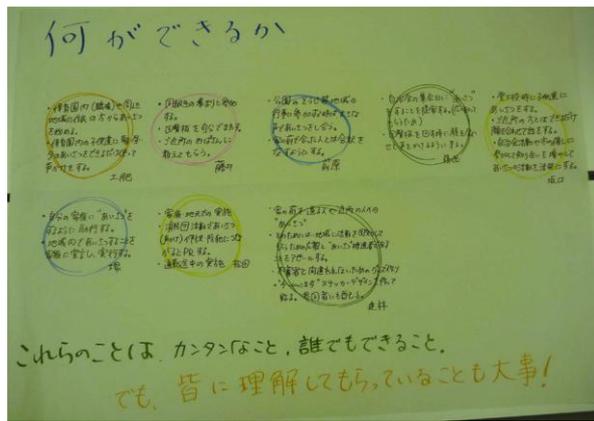
色々な観点から話をしてきましたが、生駒の将来として「生駒で気持ちよく暮らせる」ことがめざす姿であり、そのために私たちができることとして、まとめたことを発表します。

生駒の将来像	「生駒で気持ちよく暮らしたい」
気持ちよく暮らすまちとは	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつのあるまち ・安全に安心して暮らすまち ・人との関わりのあるまち ・ごみのないきれいなまち ・自然がある、感じられるまち ・のんびりできる場所のあるまち <p>→あいさつをしあう関係づくりは、すべてのことに関わってくるのでは、ということで、あいさつや声掛けから取り組んでいこう！</p>
個々で取り組むこと（メンバーのコメントから抜粋）	<ul style="list-style-type: none"> ・職場や周辺地域の住民の方からあいさつを始める。 ・回覧板を回す時に自分で回す。（近所との顔見知りになる） ・家の前で会った人とは会釈を交わすようにする。 ・自治会の集会で“あいさつ”をすることを提案する。（広めてもらうため） ・自分の家族に“あいさつ”をするように励行する。地域であいさつすることを自分も家族に宣言し、実行する。 ・消防団活動であいさつ（声かけ）が防火・防犯につながることをPR。 ・地域に活動を周知してもらうための広報と“あいさつ”推進者であることをアピール
取組みをするにあたって	<p>取組み自体は簡単なことで、誰でもできること。でも、皆にそういった活動をしているということを理解してもらっていることが大事。</p> <p>これらの取組みをしている人たちは、皆が「チームいこまダ!」の一員！最終的には、生駒市民全員にメンバーになってほしいと思っています。</p>

松村先生からひとこと

・素敵な発表でした。発表にもあったように、あいさつや声かけは、すべての基本であるともいえることで、簡単なことかもしれませんが、そうしたことの積み重ねが大切なのだと思います。





《チームバリアフリー（高齢者にやさしいまちづくり）》

メンバー：荒井さん、井上さん、加納さん、塩井さん、田中さん、三木さん、美浪さん、柳川さん、（8人）

ワークショップ当初は、高齢者福祉に焦点を当てていましたが、それは担当の部署で考えていただくということで、「高齢者にとって暮らしやすい生駒のまちづくりとは」「生駒だからこそできる高齢者の暮らし方」という視点で考えてきましたのでその内容についてご紹介します。

生駒の特徴	様々な知識、ノウハウ、経験をもった豊富な人材が暮らすまち ⇒そんな人材を「マスターズ世代」と名付けよう。
-------	---

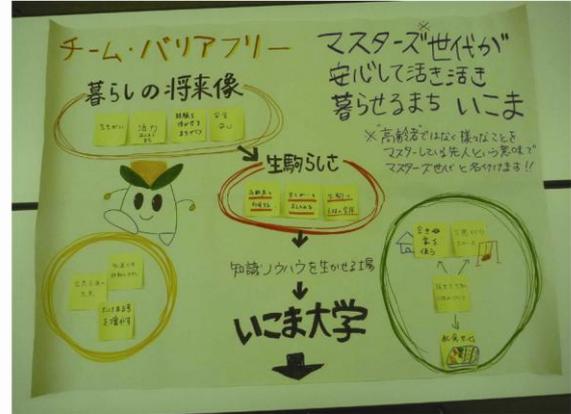
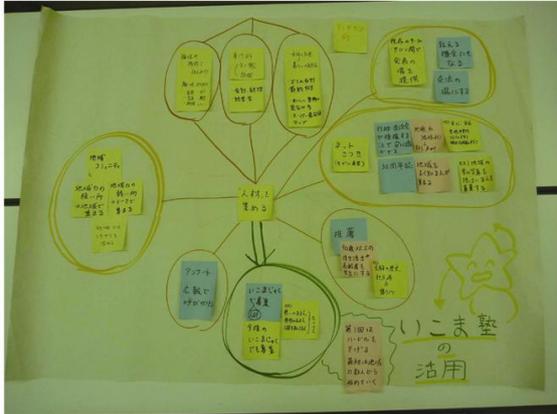


マスターズ世代が、その力を発揮でき、生き生きと暮らすことができるまちをつくりたい ⇒そんな場所として「いこま大学」をつくらう！	
いこま大学の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> これまでの人生、社会、日々の暮らしで培ってきた様々な知識やノウハウ、趣味をもった人が講師となる。 誰もが講師になることができ、誰もが生徒になることができる。 市民にとっての学びの場であり、お披露目の場であり、ひいては交流の場となる。
いこま大学の開設にむけて	<ul style="list-style-type: none"> まずは、地域力の強いところからヒアリングや自治会を通じたアンケート等で自薦、他薦を交えながら人材発掘に取り組む。 または、いこま塾のネットワークを活かすことも考えられる。 最初からハードルは上げず、気軽に学べること（例：趣味から始める写真講座、私の節約術など）から始めてみる。
チームバリアフリーのメンバーひとりひとりができること	<ul style="list-style-type: none"> 自分が所属している自治会（地域）をモデル地域として昔のおもちゃづくりなどを通して地域のネットワークづくりをしたい。 草むしりが上手と言われるので、近所のお手伝いから始める。 昔から楽器（ギター）をしているので、初心者レベルの講座を担当する。 編み物が得意なので、編み物講座ができる。

- ・教育活動に関わってきたので、そういう分野の講師をしたい。
- ・まちづくり活動をしてきたのでそういうお話などができる。
- ・配送業をしているので、車の運転等を通してお手伝いを。
- ・介護、福祉関係の経験を活かして、そういう分野のオフレコ講座などができる。

松村先生からひとこと

・いこま大学良いですね。こういった活動が地域の知り合いづくりにもつながります。既にできることを宣言してくれていますので、今後の展開に期待したいですね。



● 講評

近畿大学教授 久隆浩氏

発表の中で、大学の先生 OB に取組みに参加してもらったらどうか、という話がありました。あすか野に私の大学の知り合いの教授がいて、近々退職されますので、いい機会だなと思いついて聞いていました。

数か月の間一緒にやってきたことで、最初にグループになったときより、メンバーがわきあいあいとしていますね。そのことが何よりもよいと思いました。

今日の発表は全体的に「こんなことを市民としてやっていく」「やるから市も協力して」という内容だったので、市長は気持ちよくお聴きになったのではないのでしょうか。どの発表内容も、ちょっとずつ力を合わせればできそうなことでしたね。

三次市上田町は人口が 200 人で、小学校生徒は 7 人というまちです。自然はいっぱいありますが、住んでいる人には自然が価値あるものとして認識されておらず、「何もないまちです」とおっしゃいます。

自分たちでどれだけ頑張っても、変えられないことが世の中にはあります。しかし今、それが変わるかもしれない兆しを見せています。例えば、アメリカでは多くの人が格差を感じ、インターネットを通じて共感してデモを起こしています。デモは不満を表明するだけですので、今後は手をつないで共に行



動に移すことが望まれます。

行動に移すことが出来る人とできない人との違いは、「人脈がある、仲間がいる」というところです。東淀川にある井高野小学校では、子どもたちに遊びを通じて防災のことを教えています。中心になっているのは5人ですが、それぞれが20人の知り合いを持っているので、実際は100人の力が集められるのです。奈良でも地域の人やNPOがHANARARTという市民団体をつくって、奈良の古いまちなみでアートを展示するイベントを行っています。最初は少人数でしたが瞬く間に元気のいい人たちがつながって行って、短期間でイベントの実施までこぎつけてしまいました。

人と人がつながる場として、井戸端会議を開いているまちがあります。月に一回、口実がなくても集まれる、出入り自由の会です。会場の場所取りだけ市が行いますが、話す内容などは決まっていません。「負けるが勝ち」という言葉があるように、みんながわきあいあいとするためには勝ち負けにこだわらないことが大切だと思います。何かを決定しようとする、自分の意見が通る、通らないということなどおもしろくないこととなりますので、井戸端会議では何かを決定するような話し合いをするというよりは、おもしろそうな人とつながりをつくる、そのきっかけになる場です。長い地域では10年続けているところもあります。生駒でもそういう取り組みを始められたらどうでしょう。

今後も私にできることはお手伝いさせてもらいたいと思っていますので、今日が最後の日ではなく、できることを一緒にしていくスタートの日にしましょう。

●おわりに

大阪産業大学准教授 田中みさ子氏からひとこと



みなさんおつかれさまでした。今日までワークショップで話し合われてきたことは、今後アクションプラン検討委員会で受け継いでいきたいと思っています。委員の数が限られているので、みなさんのうち希望される人の中から抽選で決めることとなります。日程的に参加できないけれどやる気はある、という方は、いこま塾で作りあげたネットワークを経由して、ご意見を寄せていただきたいと思います。

アクションプランは、市民のみなさんの力をどう生かすのかという計画です。市民の方々と一緒に計画をつくっていきましょうと思いますので、よろしく願います。

山下市長からひとこと

日ごろから、市民のみなさんには要望やご意見をいただいています。よりよい生駒市にしていくために、市として努力したいところですが、税収が減少する一方で社会保障の出費は膨らみ、また市政40周年を迎え公共施設は建て替えや修繕や耐震化が必要となるなど、出費をきりつめてもまだ足りないような状況です。1,000人いた職員を820人に減らしましたので、正直なところ手が回らないようになってきているのも事実です。

みなさんがお持ちの要望は切実だとは思いますが、以前であれば地域で処理されてきたようなことも市に持ち込まれているようなので、コミュニティが弱体化しているという面もあると感じています。私は、山梨県の25軒の家からなる村の出身でして、そこでは子育ても教育も、コミュニティが面倒を見るような具合でした。市には人、モノ、金が乏しい一方で、地域には時間に余裕を持ちつつある「人財」がたくさんおられるように思います。活力のある地域コミュニティは、あらゆる問題を解決する基本であるように思いますので、発表にもあったようにあいさつなどを通して人間関係を築いていってほしいと思います。

「あれもこれもやってくれ」と言われるよりは、「あれはやるからこれを手伝って」と言われる方が気持ちよくお手伝いできるというのが、市職員としての本音のところだと思います。まちづくりの主役は市民だと思っていますので、主体的に取組んでいただければと思います。よろしくお願いします。

参加者から質問、意見など

市民がやっと一つにまとまってきたので、これから井戸端会議をするのであれば、やる気を消さないようなものにしてもらいたい。

市長にもできるだけ顔を出してもらえればと思う。

井戸端会議について

毎月第1日曜日の、朝9時から、市役所の会議室で集まりましょう。出入り自由ですし、知り合いに声をかけてもらってもいいです。職員も、肩書を外して参加してください。

その他

アクションプラン検討委員会の市民委員を、抽選により決定しました。



参加メンバーの集合写真

●ふりかえりシートから

「ふりかえりシート」の中からのご意見をいくつかご紹介します。

- ・顔見知りが出来たので、これからはいろんな事を習いながら、より良い生駒をめざして市民活動の参加者の一人として頑張りたいです。
- ・私が考えている「まちづくりWS」とイメージが違っていました。各班とも課題が様々で毎年続けていくと生駒市も良くなっていくのかなと思いました。
- ・それぞれのチームがすごくしっかりした提案があり、みなさんが本当に生駒のことを考えて下さっているのがわかりうれしかったです。今後はもっと現実的な話をしていきたいと思いました。

●事務局

生駒市都市整備部都市計画課

TEL : 0743-74-1111 (内線 564) FAX : 0743-74-9100 mail : ikotoshi@city.ikoma.lg.jp